

「世界史A」学習指導案

日 時 平成29年9月12日(火) 第5校時(13:15~14:05)
 場 所 2階・1年D組教室
 対 象 1年D組(33名)
 授業者 岸 百合子

1 単元名 結び付く世界と近世の日本——世界の一体化——

2 本時の目標

- (1) 地球を一周する交易ネットワークの概要から、世界の一体化に対する課題意識を高める。
- (2) 16世紀における諸地域同士の結び付きと日本との関連について理解する。

3 本時の展開

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	評価の観点	指導上の留意点
導入 15分	ヨーロッパの日本認識 学習課題の提示	○ヨーロッパ人の日本に対する認識について資料から読み取る。 A：マルコ=ポーロ『世界の記述』 B：イエズス会士に宛てたザビエル書簡 ○「ティセラの日本図」を参照し、日本の石見銀山がヨーロッパに広く知られていたことを確認する。 ○本時の学習課題(問い)を確認する。		・ワークシートに記入し、考えたことをペアで発表し合う。 ・全体で教科書を参照する。
		[問] なぜ石見銀山はヨーロッパにも知られていたのだろうか？		
展開 30分	16世紀における世界と日本の結び付き 世界の一体化	○16世紀におけるヨーロッパと日本との結び付きについて考察する。 ①16世紀のヨーロッパ(主としてポルトガルとスペイン) ②16世紀の日本 ③ヨーロッパと日本の結び付き ○世界の一体化(世界各地に形成された地域的世界が、商業活動などを通して結びつく)について確認する。 ○単元を中心となる問いを提示する。		・グループ(原則4人)で活動する。 ・個人で調べたことをグループ内で共有し、グループごとにポスターを完成させる。 ・「16世紀の銀の移動」を示した世界地図を参照する。
		[学習課題—単元の問い—] MQ：世界の一体化(異なる地域同士の接触と交流)は何をもたらしたか？ ～「自由」か「制限」か～		
整理 5分	学習のふりかえりと本時のまとめ	○本時で考えたことを踏まえ、今後の学習展開と学習意義について捉える。	関心・意欲・態度	・感想や疑問などを記入させる。

4 評価の方法等

世界の一体化について理解するとともに、異地域・異文化の接触がもたらした影響に対する課題意識を高めている。(ワークシートの記述、個人作業・グループ活動への参加態度)